



Sea級
グルメスタジアム

 日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

海と日本
PROJECT

**エリアイベント
実施報告書**

島根（浜田）エリア

1) エリアイベント開催概要

イベントタイトル	<p style="text-align: center;">どんちっちアジ無くして浜田の海は守れない！ 未来につなげるアジな資源！</p>
イベントのねらい・目的	<p>次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環として開催。高校生による小学生を対象とした授業を通して、地元の海の現状と課題を伝えます。</p> <p>授業では、小学生に地元の海について興味を持ち、今後関心を深めてもらうため、浜田の漁業/海の問題等を学び、最後に「自分たちが海を守るためにできること」を学びのまとめとして考えてもらいます。</p> <p>また、参加した高校生と小学生が水産物を使ったオリジナルパッケージ商品を製作いたします。</p>
日程	<p>令和2年 7月20日（月）座学授業 8月 4日（火）座学および体験授業</p>
開催場所	
参加人数	<p>島根県立浜田水産高等学校（参加者：15名） 浜田市立長浜小学校（参加者：35名） 浜田市立周布小学校（参加者：30名）</p>
主催	<p>海洋キッズスクール実行委員会</p>
協力	<p>島根県立浜田水産高等学校 浜田市立長浜小学校 浜田市立周布小学校</p>

2) カリキュラム内容

テ ー マ	どんちっちアジ無くして浜田の海は守れない！未来につなげるアジな資源！
開催日時	令和2年 7月20日（月）座学授業 / 8月4日（火）座学および体験授業
開催場所	浜田水産高校
参加者	島根県立浜田水産高等学校（参加者：15名） 浜田市立長浜小学校5年生（参加者：35名） 浜田市立周布小学校（参加者：30名）
講座次第	<p>【事前学習】 長浜小学校：7月20日 高校生によるzoom授業の実習 周布小学校：上記ZOOM授業をDVD化して各自家庭で事前視聴</p> <p>①自分たちの海 浜田の海の現状を知ろう 漁獲高の変遷、獲れる魚種の近年の移り変わり、それによる付随する産業、</p> <p>②浜田港の人たちが海の資源を守るためにしていること 持続可能な漁業の取り組み、海洋環境の改善</p> <p>③自分たちにできることを考える ①②の座学で学んだことと自分たちの生活を考え、 今日から島根の海のためにできることを考える</p> <p>※周布小学校はDVD視聴による自習になるため視聴後の宿題で体験学習へつなげる</p> <p>【体験学習（8月4日）】 長浜小学校：親の許可を得た参加希望児童のみ参加 周布小学校：30名程度参加予定</p> <p>①事前学習の振り返り ②浜田港に停泊する漁船を身近に見る 小型船舶カッター船を漕ぎ、実習船あわしまに乗船 実習船で浜田港の構造を海から見学、漁場の確認、海洋ごみの実態を調査</p> <p>③水産高校で作った缶詰を使った調理実習と商品化アイデア会議 ※長浜小学校は保護者ならびに学校よりコロナ対策の一環として屋外でのイベントの参加を容認「できない方針の為 ※長浜小学校で体験に参加していない児童に対して8月4日の体験&商品開発の様子をDVDにまとめて自習をしてもらい、その後レポートを提出してもらおう</p>
講座内容	<p>浜田沖は島根冷水域と暖流がぶつかり常に豊富なプランクトンが発生する海で様々な水産資源に恵まれています。潤沢な水産資源に支えられ我々の街は発展してきた。水産業 加工業 流通業など。そんな恵の海も乱獲や気象条件の変動や外的要因で漁獲高は下がっている。 そんな浜田の海を守るために行っていることは、できることは！？</p> <p>【座学 7/20（月）】 ⇒長浜小学校5年生（35名予定） 周布小学校参加者にDVDを事前配布。 ・浜田で水揚げされる魚・漁法・水産資源を生かした営みと近年の状況。 ・豊かな海を守るために行っている持続可能な漁業の取り組みとは は ・海洋環境の変化・ゴミの問題について</p> <p>【体験&座学 8/4（火）】 ⇒周布小学校を中心として（30名予定） ○体験 ・カッター船に乗船し小学生と高校生が共にオールを漕ぎ実習船あわしまに向かいます ・実習船あわしまに乗船し、海から浜田の街や港の機能、実際の漁場の見学、漂流ゴミの視認を行う。</p> <p>○座学 ・浜田で水揚げされる魚・近年の漁獲高・漁法を学びます ・浜田の水産資源を生かした営み他の産業への波及&資源を守る取り組みの説明 ・水産高校で作った缶詰を実食/缶詰を使い調理実習</p> <p>【ディスカッション⇒まとめ】 ・これから自分たちが出来ることのディスカッション ン ・コロナで影響を受けて消費が落ちている魚の現状 状 ・漁獲高の中でも主要な魚種アジを使ってみんなが食べたくなるような商品を開発しよう。</p>

3) スケジュール

時間	項目	備考
8:30	周布公民館着	バスにて移動（周布公民館→浜田水産高校）
9:00	浜田水産高校に移動	
9:10	開会式・事前学習の共有	
9:30	小型船舶カッター体験	浜田水産高校よりカッターで実習船まで移動
10:00	実習船あわしま乗船・出航	操舵室見学、新市場や漁港、漁船を海上より見学
10:45	実習船あわしまにて浜田水産高校に戻る/休憩	
11:00	座学①	海洋科の実習棟にて講義
12:00	座学②（休憩/昼食含む）	食品科の調理実習室にて調理および昼食/グループディスカッション ⇒まとめ
13:20	閉会式	
13:30	全日程終了	バスにて移動（浜田水産高校→周布公民館）

※参加小学校様からのご要望で、新型コロナウイルス対応により、体験授業については生徒の保護者様のご判断が可能な希望者参加型とし別日開催と致しました。

3) イベント内容

オンライン授業

7月20日(月)
15:00-16:00
in 長浜小学校

実施する小学校の要望によりコロナ対策とし、長浜小学校5年生のクラスと浜田水産高校をZOOMでつなぎ、海洋科の高校生4名が先生として授業を実施しました。小学生、高校生ともにオンラインでの授業は初めの経験ということもあり冒頭はやりとりにぎこちなさがありました。クイズなどで双方向でのコミュニケーションを図ったことで徐々に慣れていった様子でした。特に水産高校の授業の穴子漁の様子をまとめたVTRは、普段とは違った視点で浜田の海の一面について触れ、興味をもった様子でした。



8月 4日(火) リアルイベント

<p>開会式 (9:10～9:30)</p> <p>in 浜田水産高校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜田水産高等学校 福井校長挨拶 ・ 海洋キッズスクール実行委員会 益井廣志 挨拶 ※Sea級グルメスタジアムの運営局として ・ VTRでSea級グルメスタジアムの概要説明 ・ 当日指導&補助をしていただく 高校の先生 & 生徒ご紹介 ・ 当日のスケジュール/注意事項説明
---	--



<p>カッター体験 (9:30～10:00)</p> <p>in 浜田水産高校</p>	<p>ライフジャケットを着用し、高校カッター部部員の補助の下、カッターに乗り込み浜田湾内を周遊した後、実習船あわしままで向かいます。</p>
---	--



実習船体験
(10:00～
10:45)

in 浜田港

船上では、座学授業で行う「海を守るために自分たちができること」の導入として、水産高校の先生から船の操縦や機能を学んだり新しくできた市場や漁船などを船から見学したり、浜田湾内の海洋ごみの状況についても観察しました。



座学①
(11:00～
12:00)

in 浜田水産高校

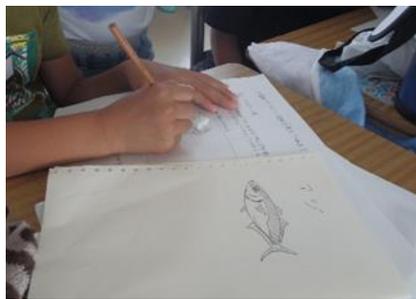
浜田水産高校海洋科の生徒の方の講義
4グループに分かれ、実習船で学んだ漁船や魚に関するクイズや、浜田で水揚げされる魚・漁法について学びました。



座学②
(12:00～
13:20)

in 浜田水産高校

商品開発の導入としてVTRで視聴した浜田水産高校実習で作った缶詰を実食しました。
また、他の県の小学生に食べてほしい浜田らしい味付けは？座学と体験を活かした浜田の海をPR出来るパッケージと商品名をグループワークで考え、発表しました。



閉会式
(13:20～
13:30)

in 浜田水産高校

小学生の感想発表 → 3人
高校生挨拶
講評・閉会挨拶 → 浜田水産高等学校 福井校長

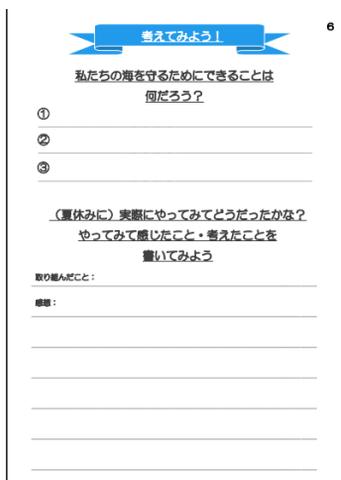
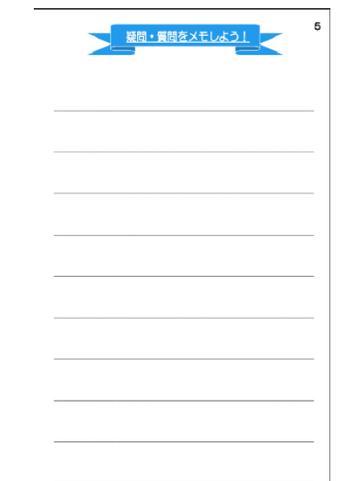
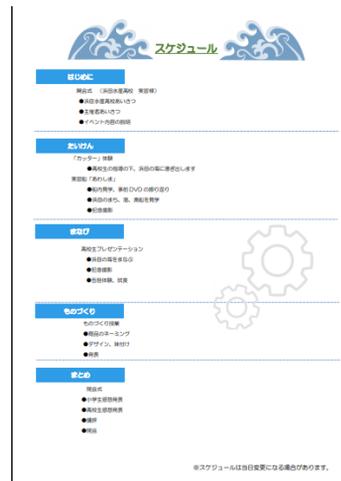
一日指導をしてくれた高校生と、小学生3名が今日の体験をまとめとして振り返りました。最後にお土産として水産高校でつくった缶詰を、高校生自らが声かけをしながら渡しました



3) その他

<p>参加者の声 (小学生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段できない体験ができた ・ もっと海について知る、浜田の海を考えたり調べたりしたいと思った ・ 今日教えてもらったことを意識して海で遊ぶ ・ レジ袋などはできるだけもらわない、マイバックなどを忘れないように持ち歩く ・ なるべくプラスチックごみを減らす、分別する ・ ごみを捨てない、見て見ぬふりをせずちゃんとひろう、捨てるひとがいたら注意する ・ ごみをひろい、海のボランティアに取り組む
<p>参加者の声 (高校生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海のこと、自分たちが取り組んでいることなど興味をもって質問をしてくれてうれしかった ・ 毎日海について学んでいるが、(この取り組みをきっかけに) より海について考えるようになった ・ オンライン授業よりも小学生が何に興味をもっているのかよりリアルに感じられてよかった ・ 事前に練習したり準備して授業を行ったが、小学生からの質問に答えられないものがあり、教える側の難しさを感じた
<p>達成状況</p>	<p>小学生からは普段ではできない体験ができた。地元の海について調べたり、考えたりしたいとの声が寄せられました。地元の海に関心を持つきっかけになったと感じております。</p> <p>高校生からはいつも海の事を学んでいるが(この取り組みをきっかけに) より海について考えるようになった) 等の声が寄せられました。小学生・高校生ともに地元の海に対して関心を持つきっかけになったと感じております。今後、継続的にこのような事業を行い、一人でも多くの若者が地元の海に関心を持ち、環境を守り、発展の為には何が自分たちにはできるのかを考えるきっかけの場になれば良いと考えております。</p>

4) 学びノート



5) オリジナル商品

豊かな浜田の海からのおくりもの どんちっち あじ



6) メディア露出

①テレレポート山陰



②Bang+

